

10月の植物

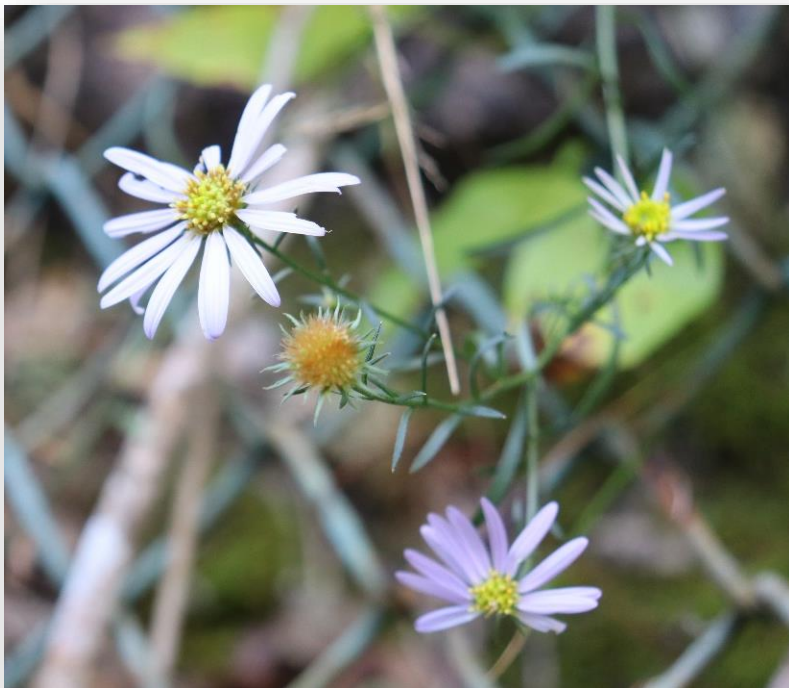
ブゼンノギク (キク科シオン属)

学名 : *Aster hispidus* Var. *koidumianus*(Kitam.)Okuyama

ブゼンノギクを初めて知ったのは嬉野町両岩での観察会の時であり、故貞松光男先生から教えてもらった。岩山の上方から垂れ下がりノコンギクに似た紺色の花がたくさん咲いているのが脳裏に焼き付いた。その後、毎年のように両岩を訪れているが、減少しているように思う。

ブゼンノギクの原産地、大分県中津市羅漢寺を訪ね古羅漢に登った。一帯には多くのブゼンノギクが生育していて気持ちが高ぶり、夢中でシャッターを切った。その後、黒髪山系にもあるとの情報を得て、訪ねたところ岩上に数株見ることができた。日本の野生植物Ⅲによると「佐賀県や熊本県からの報告は誤認である。」とあり、ヤマジノギクではないかといわれている。その違いは葉や茎にある毛の有無にある。羅漢寺のものと両岩のものを比較してみると茎や葉に毛は見られず、両岩のものには僅かに毛が確認された。最近の研究(熊本大学)でも佐賀県のはブゼンノギクではないとされているそうである。

ブゼンノギクはヤマジノギクの変種で険しい岩場に生える越年草。主茎は短く、長い分枝が垂れ下がる。茎は人のひざの高さを越えて立ち上がることは無い。葉はヤマジノギクより細いものが多く、頭花や総苞の形態はヤマジノギクと変わらない。名前はかつての豊前国、大分県耶馬溪のものから命名された。(写真・文 井手 義信)



竜門狭 2023.10.3



両岩 2022.1.8



羅漢寺 2016.11.7

参考文献

日本維管束植物目録, 佐賀県植物目録, 日本の野生植物Ⅲ, 日本の野菊